

散歩ガイドマップ

拝島駅から玉川上水駅

拝島駅から玉川上水駅まで約7.0キロ

拝島分水口と殿ヶ谷分水口

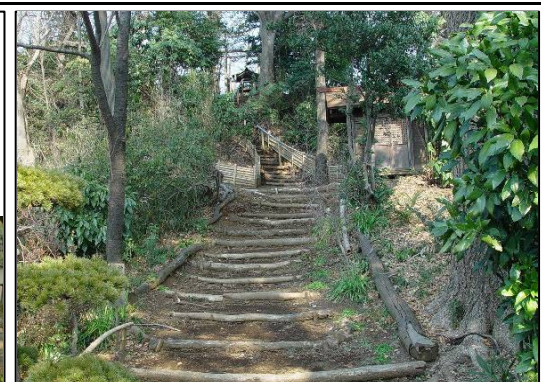
平和橋の下流側すぐ右手に拝島分水口、更に下流の左手に殿ヶ谷分水口跡が、更にその下流には堰も残されている。拝島分水の明確な開設の年代は不明であるが、明暦3年(1657)頃とされる古い分水で拝島宿の中央を流れていた。現在でも奥多摩街道の両側に流れが残る。殿ヶ谷分水は享保5年(1720)殿ヶ谷、宮沢、中里、砂川の4新田への生活用水として引かれた。現在流れは途絶えている。

暗渠

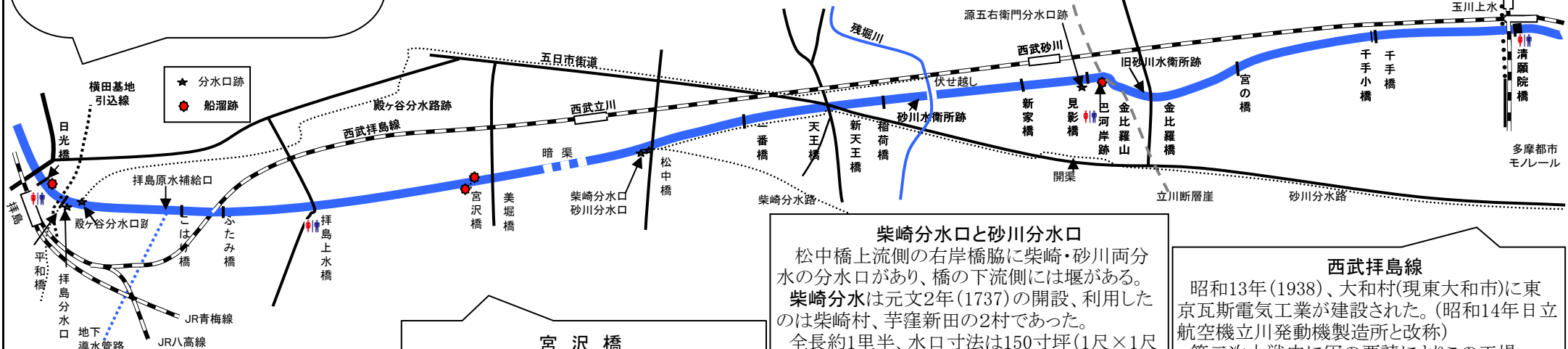
上水は西武立川駅南側付近で約350mの区間が暗渠になっている。上水右岸(南側)にある昭和飛行機は、戦前・戦中にかけて軍需工場として軍用飛行機を生産していた。ここに昭和14年(1939)ごろ長さ1200m、幅170mの滑走路があった。将来この滑走路の延長が予定されたために、上水に覆蓋工事が行われたとされる。30トンの荷重にも耐えられるよう頑丈に設計されている。終戦により滑走路の延長計画は立ち消えとなり上水の暗渠はそのまま残された。現在公園となっている。また、滑走路のあった工場の跡はゴルフ場などになっている。

旧砂川水衛所跡

金毘羅橋の上流側に、明治27年(1894)から昭和38年(1963)3月まで砂川水衛所が置かれていた。この時の作業橋が残る。残堀川改修により上流の残堀川交差点に移転し、さらに昭和55年(1980)に小平監視所に統合された。



玉川上水を掘った土で築かれたとも言われる金比羅山



日光橋

わが国に現存する最古の道路のレンガアーチ橋ともいわれている。明治24年(1891)5月から7月に、木橋からレンガ橋に架け替えられた。(ただし内部はコンクリートが詰められ、実質的にはコンクリート製アーチ橋) このレンガの多くは日野にあった日野煉瓦製造所で焼かれたものが使われた。昭和25年(1950)3月、橋の拡幅のため両側にコンクリート製アーチ橋が掛けられたが、橋中央部のレンガ橋は残されている。橋名は、八王子千人同心が日光勤番のための往還として利用した日光街道にこの橋が架けられたことに由来する。

宮沢橋

上水記にも名前がある古い橋。現在は使われていない。明治期、玉川上水に通船が通ったとき、この橋の上流南側(拝島村)及び下流北側(宮沢新田)に船溜が設けられた。



柴崎分水口と砂川分水口

松中橋上流側の右岸橋脇に柴崎・砂川両分水の分水口があり、橋の下流側には堰がある。柴崎分水は元文2年(1737)の開設、利用したのは柴崎村、芋窪新田の2村であった。全長約1里半、水口寸法は150寸坪(1尺×1尺5寸)。現在も、昭和記念公園内を経由し青梅線を越え、JR中央線を金属製の掛樋で渡り流末は根川へと流れている。砂川分水は明暦3年(1657)開設の古い分水。利用したのは砂川村1村であった。全長約1里余、水口寸法は49寸坪(7寸四方)。開設当初分水口は天王橋下流にあった。江戸末期頃には下流の榎戸、平兵衛、中藤、鈴木、下小金井の各分水は砂川分水につなげられていた。更に、明治3年(1870)の分水改正で、分水口は現在地に移設され、国分寺、梶野、境の各分水ともつながれ、境分水までの右岸各分水の分水口は砂川分水口一つに統一された。(砂川分水は後に、深大寺村などに延伸されたので深大寺用水とも呼ばれている)

西武拝島線

昭和13年(1938)、大和村(現東大和市)に東京瓦斯電気工業が建設された。(昭和14年日立航空機立川発動機製造所と改称) 第二次大戦中に軍の要請によりこの工場へ、西武川越線(現西武国分寺線)小川駅から専用線路が敷設された。終戦により工場は閉鎖となり、米軍大和基地として米軍に接収されていた。昭和25年(1950)5月、西武鉄道がこの専用線路を使い小川・玉川上水間に上水線を建設、営業運転を開始した。昭和43年(1968)5月、この上水線が拝島まで延長され、現在の西武拝島線となった。

多摩都市モノレール

平成10年(1998)11月上北台・立川北間が開通し、平成12年1月上北台・多摩センター間の全線16kmが開通した。多摩地区を南北に結んでいる。モノレールの開業に伴い、芋窪街道は玉川上水と西武線を地下で横断している。

拝島原水補給口

こはけ(小欠)橋の上流約50mの右岸にある。昭和15年(1940)夏、多摩川の異常渇水により都の水道は時間給水に追い込まれ、さく井を設けるなどして急場をしのいだ。

この結果、玉川上水へ本格的な水道原水補給施設が必要となり、昭和16年(1941)の2～3月にかけて急遽建設された。

補給口より約2km南西の多摩川と秋川の合流点近く(昭島市拝島町・啓明学園付近)にある「昭和用水堰」で取水した農業用水が堰近くの「拝島原水補給ポンプ所」に流れ、ここから直径1.1mの地下導水管で原水補給口へ送水される。

現在は水利権などの関係で使われるのは、非灌漑期の10月から翌年の4月末までの期間である。最大毎秒1.5トンの能力があるが、一日5万トン程度を取水している。

こはけ橋付近の原水補給口



補給口より約2キロ先の多摩川の昭和用水堰・水門



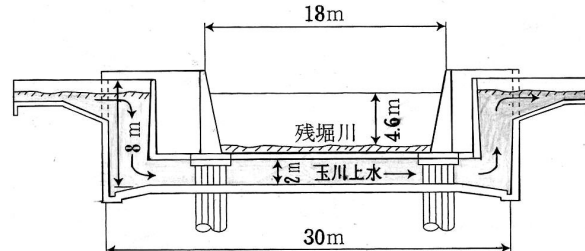
残堀川と伏せ越し

残堀川は瑞穂町の狭山池を水源とする全長14.5kmの一級河川で武蔵村山市、立川一番町、昭和記念公園を抜け富士見町3丁目で根川に合流、多摩川に注いでいる。

本来は立川断層に沿って流れ立川と国立の境付近の青柳を経て矢川に注いでいたといわれる。昔から大雨の度に氾濫する「暴れ川」で洪水の度に土砂を堆積、土地の人から「砂の川=砂川」と呼ばれ砂川の地名の由来ともされた。

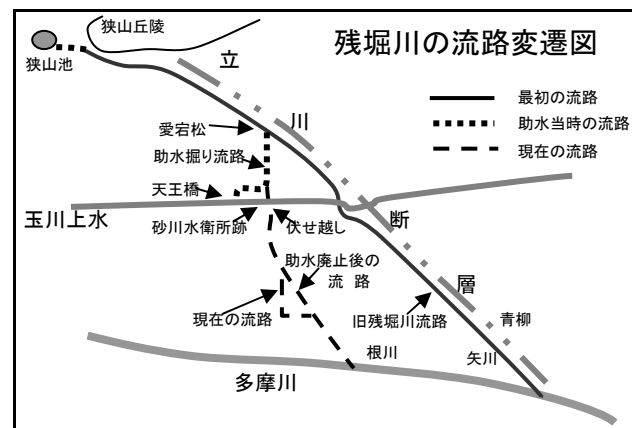
残堀川は玉川上水開削当初に流路を大幅に変えられ、天王橋付近で玉川上水に合流されて助水の役割を果たした。普段は水流は乏しい。流域の生活水の混入などで汚染が進み、明治40年ごろ現在の位置で上水の下をくぐらせ、玉川上水はその上の水道橋を流れるよう変更された。その後、残堀川のたび重なる氾濫により、流路や川幅などの大幅な改修が行われ、昭和38年には現在のように、玉川上水が残堀川の下をくぐるよう変えられた。

このようなくぐり抜けを「伏せ越し」という。水位差による自然流下により流れる(逆サイホンといわれる)。



昭和57年(1982)に「残堀川流域整備計画」が策定され、改修工事が施工された。

それ以降は殆ど水流の見られない「瀬切れ」を起こすようになった。これは川底が礫層まで掘り下げられたため、この対策を織り込んだ新たな河川整備計画が平成19年(2007)に発表された。



玉川上水ワンポイントガイド No. 15

散歩ガイド (拝島駅から玉川上水駅)



見影橋から上流方向・左(右岸)に源五右衛門分水口跡が見える

シリーズ 玉川上水ワンポイントガイド

1. 玉川上水の概要
2. 玉川上水の分水
3. 玉川上水の分水・小平編
4. 玉川上水と小平周辺の新田開発
5. 玉川上水の橋
6. 玉川上水の水車
7. 玉川上水の通船・船溜り
8. 玉川上水の樹木・野草・野鳥
9. 玉川上水と小金井サクラ
10. 玉川上水あれこれ
11. 玉川上水お勧め散歩ガイド
12. 玉川上水散歩ガイド 玉川上水駅から一橋学園駅
13. 玉川上水散歩ガイド 一橋学園駅から三鷹駅

No	テーマ
14	玉川上水散歩ガイド 羽村駅から拝島駅
15	玉川上水散歩ガイド 拝島駅から玉川上水駅
16	玉川上水散歩ガイド 三鷹駅から富士見ヶ丘駅
17	玉川上水散歩ガイド 富士見ヶ丘駅から代田橋駅
18	玉川上水散歩ガイド 代田橋駅から新宿御苑駅
19	小平市内の用水分岐水門・分岐口めぐり
20	小平市内の石橋供養塔めぐり
発行 2009年5月 No1～No14発行済	

発行 小平・玉川上水再々発見の会
E-mail tamagawasaisai@yahoo.co.jp
代表 庄司徳治